

令和元年度ウミガラス保護増殖事業 実施計画

1. 誘引対策

- (1) 音声装置の稼働
ウミガラスを誘引する音声装置を、赤岩基部に可能な限り 3 月中に設置・稼働する。
- (2) デコイの設置作業
老朽化・破損したデコイを繁殖期終了後の 8 月下旬頃に交換する。

2. 飛来・繁殖調査

繁殖地内カメラや目視等により、飛来数、餌運び、雛及び巣立ち等の調査を実施する。特に近年は繁殖範囲が拡大していることから、できる限り広角にカメラを設置し、繁殖箇所の把握に努めるようにする。

- (1) 繁殖地内カメラ及び関連機器の設置・稼働
メンテナンスを終えたカメラ及び関連機器を 4 月中に設置し、動作確認を行う。
また、カメラについては、画像解析に係る精度の向上と作業の効率化のためハイビジョン化を行う。なお、ハイビジョン化については、葛西臨海水族園が申請する野生動物保護募金助成事業（事業主体：日本動物園水族館協会）により実施する予定。
- (2) 渡り調査
ウミガラスの渡りの時期である 10 月～翌年 3 月に、航路センサスによる渡りの調査を、月 1 回程度実施する。
- (3) 目視調査
その他随時、目視による調査を行う。

3. 捕食者対策

平成 30 年度に引き続き、オオセグロカモメ・ハシブトガラスの捕食者対策を実施する。

- (1) 銃器（エアライフル）による捕獲
 - 1) 実施時期
5 月から 8 月（週 1 回程度）（6 月下旬から巣立ち終了時期までは、週 2 回）
 - 2) 実施範囲・捕獲上限数
 - a) オオセグロカモメ
ウミガラスに被害を及ぼす恐れのある赤岩対崖繁殖地周辺の個体を捕獲する。ただし、近年のオオセグロカモメの繁殖状況を踏まえ、状況に応じて捕獲範囲を縮小するなどの対応を行う。
 - b) ハシブトガラス
ウミガラスに被害を及ぼす恐れのある海鳥繁殖地・ねぐら周辺の個体を捕獲する。
- (2) モニタリング調査
ハシブトガラスについて、抱卵期・育雛期・巣立ち期などステージごとの個体数をラインセンサス調査などで把握し、効果的な対策方法や時期などについて、引き続き、検討を行う。
オオセグロカモメについても、天売島海鳥研究室の調査に協力し個体数に変動がみられるか調査する。
- (3) ハシブトガラスの試行的な巣落としによる捕獲
別途事業（国立・国定公園の海域適正管理強化事業（マリンワーカー事業））により、ハシブトガラスの巣落としによるヒナ・卵の捕獲を行い、ハシブトガラスへの捕獲圧等の効果の有無等を調査する。

4. 普及啓発活動

繁殖地内カメラの映像（音声付き）などを活用し、ウミガラスに関するリアルタイムの情報発信を北海道海鳥センターにおける普及啓発を基本に、地元関係者、観光施設などと連携して実施し、海鳥保全の普及啓発・地域振興に活用する。

5. その他

(1) 遺伝子分析に係る残渣の回収・保管

繁殖期終了後に行うカメラ及び関連機器の撤去の際に、将来の遺伝子分析のためにウミガラスの羽や糞、卵殻などの残渣の有無を調査・回収し、保管する。

なお、他地域との遺伝子多様性の確認のため比較対象となる地域個体の文献等の収集を行う。

(2) 葛西臨海水族園との連携

検討会委員である葛西臨海水族園と連携を行い、ウミガラス保護増殖事業に参画していただくとともに、域外保全の促進や飼育下での情報提供などを進める。

(3) その他希少鳥類（ケイマフリ、ウミスズメ）調査

1) ケイマフリ

前年度に引き続き、個体数調査と繁殖数調査を行う。

2) ウミスズメ

可能な範囲で、海上個体数調査

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月～	
1. 誘引対策								
(1) 音声装置の稼働		←	→	→	→	→		
(2) デコイの設置作業		←	→			←	→	
2. 飛来・繁殖調査								
(1) 繁殖地カメラの稼働		←	→	→	→	→		
(2) 渡り調査	←	→						
(3) 目視調査	←	→	→	→	→	→		
3. 捕食者対策								
(1) エアライフルによる捕獲			←	→	→	→		
(2) 捕食者モニタリング調査	←	→	→	→	→	→	→	
(3) ハシブトガラスの巣落し		←	→	→	→			
4. 普及啓発活動	←	→	→	→	→	→	→	
5. その他								
(1) 遺伝子分析の実施							←	→
(2) 葛西臨海水族園との連携	←	→	→	→	→	→	→	→
(3) 希少海鳥の調査	←	→	→	→	→	→		
ウミガラスの行動（H30年実績）	←	→	→	→	→	→		
		渡り	繁殖地へ移動、繁殖行動		抱卵	育雛	巣立ち	